

148 東京法学院討論会

〔『法学新報』第一二二号 明治三十四年四月二十日〕

○東京法学院討論会

三月三十一日午後一時開会左の問題に付て討論を試む

甲者あり其知人乙者と未知の人丙者と共に難船に遇ひ僅に一人のみを救ふに足るへき片舟を互に争奪あるに際し乙か丙の爲めに溺死せしめられんとするを目撃し丙を銃殺せり甲の処分如何

積極論者には久保田良行、谷繁始、山崎有信、舊手忠義、堀添

三郎、山邊常重の諸氏出で消極論者には山口兼良、山田辰之進、
本間信雄、佐藤章次、川手新太郎、本間則忠の諸氏出で最後に
豊島講師の説明ありて散会す時に午後五時

(編者曰豊高氏の説明は論説欄内に掲ぐ読者之を参看せられよ)